

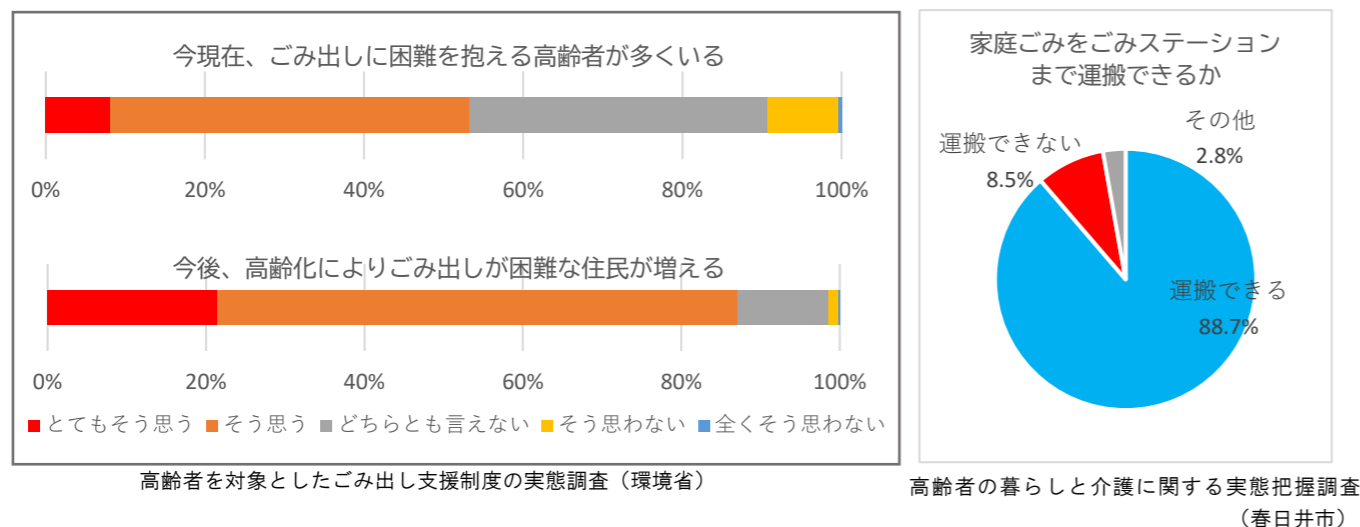
ごみリセットプロジェクト

1 背景・趣旨

① ごみ出し支援のニーズ

全国の市町村が実施した「高齢者のごみ出しに関する実態調査」では、現在、ごみ出しに困難を抱える高齢者がいると思うかとの設問に対して、約半数以上が「そう思う」と回答。今後、困難な住民が増えるかとの設問に対しては、9割弱が「そう思う」と回答しており、高齢者のごみ出し支援についてのニーズや危機感が高まっている。

また、市内の高齢者については、約1割がごみの運搬ができないと感じている。



② さわやか収集

本市では、家庭から出るごみをごみステーションまで持ち出すことができない人を対象に、分別されたごみを収集員が玄関先までごみを取りに伺う「さわやか収集」を実施している。

■ 対象者

アまたはイに該当し、近隣住民や家族等から協力を得ることできない人

ア： 65歳以上で介護保険の要支援か要介護認定を受けている一人暮らしの人

イ： 各種障がい者手帳を有する一人暮らしの人

※利用には申請が必要となり、申請後に面談による生活実態調査を行い、審査を経て利用の可否が決まる。

■ 利用登録世帯

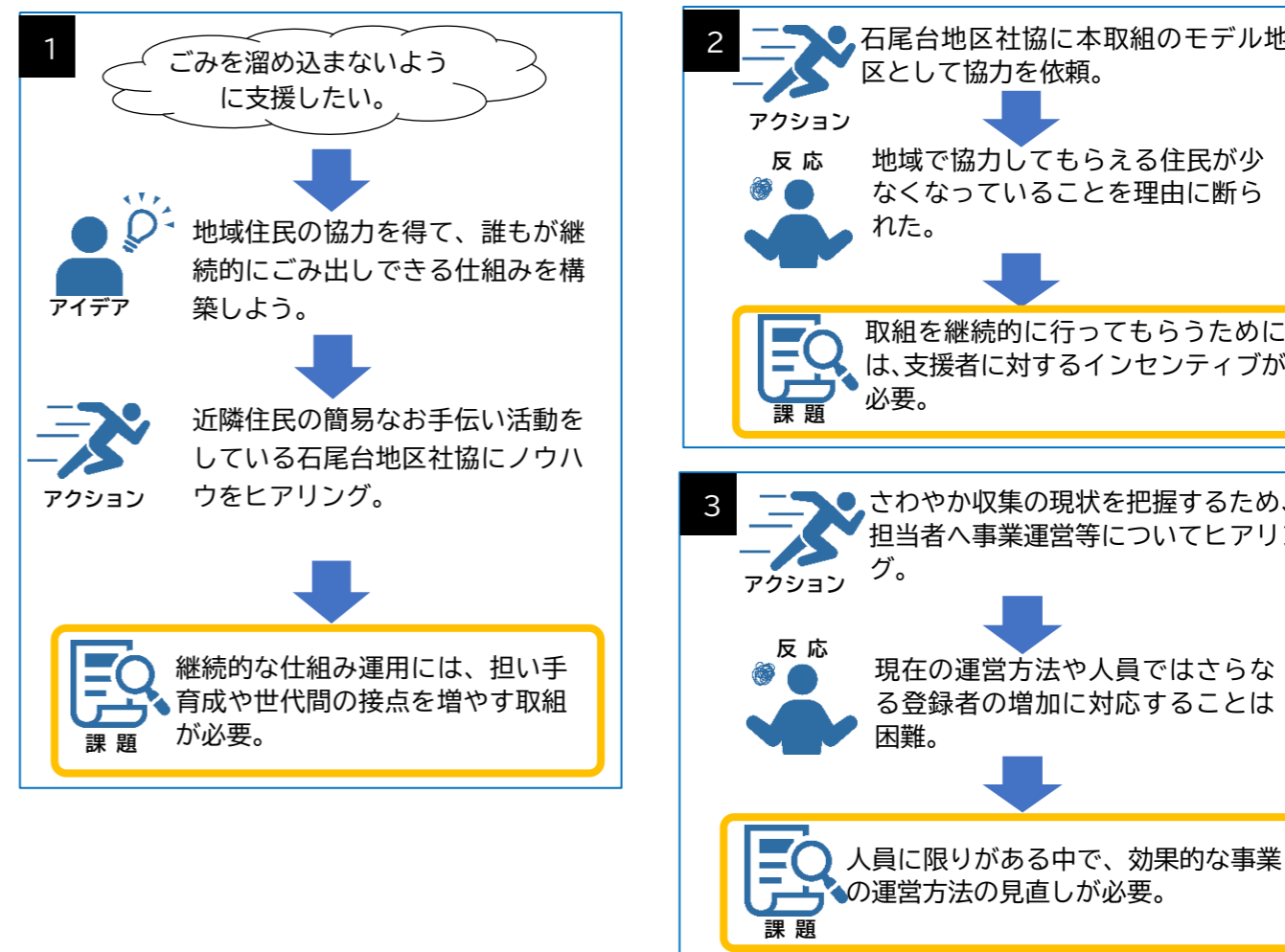
303世帯（令和4年度時点） → ごみ出しが困難な高齢者（約8000人）の 3%に相当

今後、増加が見込まれるごみ出し支援のニーズに対応するためには、行政の支援に加え、地域住民が自走的に支援し合える仕組みが必要

2 ごみ出し支援の方向性

- ① 「さわやか収集」の対象要件の見直し・収集体制の拡大の検討
- ② 地域住民の互助による収集支援の検討

3 プロジェクトの進捗



4 今後の展開

取組を通してわかったこと

- 会員の高齢化や定年の延長等により、地域の担い手が不足しており、地区社協の負担が増加傾向にある。
- 実際に、近隣同士で個人的な助け合い活動を実施している方は多くいる。
- 複合化する生活課題を抱える世帯に対しては、地域住民のみでの支援はハードルが高い。
- 地域住民が取組を自主的に行うためには、本人が「やりたい」という気持ちからスタートすることが重要。
- より多くの方を支援するためには、行政が取り組む事業の効果的な運営と地域の助け合い活動の双方が必要。

今後のイメージ

- アクション** 地域住民が自主的に取組に協力してもらえる方法を検討し、実践します。
- アクション** 地域が抱える課題や地域のつながりが重要であることの啓発方法を検討し、地域に働きかけます。
- アクション** 継続的な仕組み運用の実現のため、担い手確保や地域交流の支援について検討し、活動を実施します。
- アクション** さわやか収集のより効果的な運営を実施するため、運営方法の見直しを行います。